

はき 1-94 脳血管障害で誤っているのはどれか。

1. 弛緩性麻痺に始まり次第に痙性麻痺なることが多い。
2. 失語症は発生器官の麻痺による。
3. 知覚および視覚に障害のない失認症がある。
4. 拘縮の予防または治療のために関節可動域訓練が必要である。

はき 2-93 脳卒中後片麻痺について正しい記述はどれか。

1. 片麻痺からは骨粗鬆症にならない。
2. 麻痺の程度と排尿障害の程度とは無関係である。
3. 痙性の出現によって内反尖足が起こる。
4. 関節可動域訓練によって肩関節の亜脱臼が起こりやすい。

はき 3-93 脳卒中後遺症について正しい記述はどれか。

1. 左片麻痺に失語症が起こる。
2. 右片麻痺に失認症が起こる。
3. 麻痺側肩関節に亜脱臼が起こる。
4. 発症初期から強い痙性麻痺が起こる。

はき 3-94 脳卒中患者の背臥位における良肢位保持について正しい記述はどれか。

1. マットレスは柔らかいものとする。
2. 肩甲帯を後方に引く。
3. 股関節は内旋外旋中間位とする。
4. 足関節は底屈位とする。

はき 5-91 脳卒中患者の動作について正しい記述はどれか。

1. 衣服を脱ぐときは健側から行う。
2. ベッドから起きるときは患側を下にして行う。
3. ベッドからの移乗では車椅子を患側に置く。
4. 階段は健側から降りる。

はき 5-95 脳卒中患者の合併症はどれか。

1. けいれん
2. 視床痛
3. 肩手症候群
4. 失語症

はき 6-93 脳卒中の障害で誤っている記述はどれか。

1. 多発性梗塞は痴呆の原因となる。
2. 舌、口唇の麻痺は失語症の原因となる。
3. 嚥下障害は肺炎の原因となる。
4. 肩手症候群は上肢痛の原因となる。

はき 7-93 脳卒中の回復に関して誤っている記述はどれか。

1. ブルンストロームのステージに従って回復する。
2. 発症後6か月ころから回復が著明となる。
3. 上肢の回復予後は一般に悪い。
4. ホームプログラムは機能維持に有用である。

はき 8-93 脳卒中片麻痺患者リハビリテーションについて誤っている記述はどれか。

1. 家屋の構造を知る必要がある。
2. 介助の軽減は目的の一つとなる。
3. 発症後6か月で完結させる。
4. 弛緩性麻痺の期間が長いと到達レベルは低い。

はき 9-92 片麻痺の理学療法で正しい記述はどれか。

1. マット上で膝立ち訓練を行う。
2. 立位保持は膝の過伸展を利用する。
3. 杖歩行では杖の次に健側下肢を前に出す。
4. 浴槽へは患側下肢から入る。

はき 10-95 脳卒中急性期の背臥位での良肢位として誤っているのはどれか。

1. 枕を高めにする。
2. 患側肩甲帯を前に出す。
3. 両骨盤を水平にする。
4. 股関節を内外旋中間位にする。

はき 11-94 脳卒中による右片麻痺患者にみられる症状で誤っているのはどれか。

1. 失語症
2. 左半側空間失認
3. 両眼での右側視野の欠損
4. 右上下肢の知覚障害

はき 12-92 脳卒中のリハビリテーションで正しい記述はどれか。

1. 意識障害が強い患者では関節可動域訓練は禁忌である。
2. 坐位が安定していなくても歩行訓練を開始する。
3. 歩行が自立していなくてもセルフケア訓練を開始する。
4. 下肢麻痺が共同運動レベルでは装具歩行ができない。

はき 16-85 脳梗塞において運動負荷が禁忌となるのはどれか。

1. 安静時心拍数 90/分
2. 収縮期血圧 150mmHg
3. 拡張期血圧 120mmHg
4. 上室性期外収縮

はき 17-89 脳卒中片麻痺患者への歩行指導について正しい記述はどれか。

1. 歩行訓練開始時に歩行器を使用させる。
2. 感覚障害が強い患者にはプラスチック製短下肢装具を使用させる。
3. 見守り歩行では介助者は患者の健側に位置する。
4. 3動作歩行では杖をついた後は患側下肢を前に出させる。

はき 18-88 脳卒中片麻痺患者に用いる装具はどれか。

1. 短下肢装具
2. 免荷装具
3. 股関節装具
4. 腰椎装具

はき 19-89 脳卒中のリハビリテーションで、国際障害分類（ICIDH）で定義された能力低下に対して行うのはどれか。

1. 関節可動域訓練
2. 麻痺側促通訓練
3. 利き手変換訓練
4. 持久性訓練

はき 19-90 脳卒中急性期における良肢位で正しいのはどれか。

1. 肩関節外転
2. 手関節掌屈
3. 足関節底屈
4. 手指伸展

はき 20-90 肩手症候群の症状で最も適切なのはどれか。

1. 手指末端の壊死
2. 肩関節亜脱臼
3. 手掌のしびれ
4. 手背の腫脹

はき 21-87 脳卒中片麻痺患者に用いる装具はどれか。

1. PTB式免荷装具
2. 股関節外転装具
3. 金属支柱付膝装具
4. 靴べら式短下肢装具

はき 21-89 脳卒中片麻痺患者の対応で適切な記述はどれか。

1. 患側の可動域訓練では素早く関節を動かす。
2. 麻痺側の肩関節亜脱臼は徒手的整復を行う。
3. 杖の高さは床から臍部の高さまでとする。
4. 利き手が完全麻痺の場合は利き手交換訓練を行う。

はき 22-89 脳卒中のリハビリテーション中に起こる骨折の特徴で正しいのはどれか。

1. 健側下肢が多い。
2. 抗血栓剤の内服で起こりやすい。
3. 半側空間無視の合併で起こりやすい。
4. 失語症の合併で起こりやすい。

はき 23-83 脳卒中の左大脳半球損傷でよくみられる障害はどれか。

1. 球麻痺
2. 失語症
3. 左片麻痺
4. 左半側空間無視

はき 24-83 脳卒中の肩手症候群に対するリハビリテーションで正しいのはどれか。

1. 温熱療法は禁忌である。
2. 頸椎牽引が有効である。
3. 関節可動域訓練は禁忌である。
4. 星状神経節ブロックが有効である。

はき 25-84 右大脳半球の脳卒中でよくみられるのはどれか。

1. 右片麻痺
2. 球麻痺
3. 失語症
4. 左半側空間無視

はき 28-83 脳卒中片麻痺患者の動作について正しいのはどれか。

1. 衣服を着るときは健側から行う。
2. ベッドでの起き上がりは患側を下にする。
3. 歩行時には杖を健側で持つ。
4. 階段は患側から上がる。

あ 1-104 急性期の脳血管障害の対応で正しいのはどれか。

1. 良肢位の保持だけすればよい。
2. 関節可動域訓練は急性期には避ける。
3. 足関節は 0° で固定しなければならない。
4. 肩関節は軽度の外転、外旋位にするのがよい。

あ 2-104 脳卒中について誤っている記述はどれか。

1. 言語障害には失語症と構音障害とがある。
2. 運動障害と知覚障害は比例する。
3. 失認失行は訓練の阻害因子となる。
4. 麻痺の回復の速度は患者によって異なる。

あ 3-103 脳卒中急性期における理学療法の原則として正しい記述はどれか。

1. 体位変換は毎日 1 回とする。
2. 側臥位は麻痺側を下にする。
3. 良肢位で持続的に固定する。
4. 他動的関節可動域訓練をする。

あ 4-102 脳卒中に属さない疾患はどれか。

1. 脳内出血
2. 脳梗塞
3. 脳腫瘍
4. クモ膜下出血

あ 5-103 脳卒中急性期の理学療法で適切でないのはどれか。

1. 体位変換
2. 良肢位の確保
3. 関節可動域訓練
4. 歩行訓練

あ 6-102 脳卒中片麻痺患者の歩行訓練で誤っている記述はどれか。

1. 立位バランス訓練を行った後に開始する。
2. 不安定な場合は 4 脚杖を用いる。
3. 3 点歩行ではまず健側下肢を前に出す。
4. 内反尖足には短下肢装具を用いる。

あ 7-102 脳卒中のリハビリテーションで誤っている記述はどれか。

1. 状態に関係なく直ちに開始する。
2. 良肢位保持は拘縮を予防する。
3. 健側肢の筋力強化を行う。
4. 体位変換は褥瘡を予防する。

あ 9-105 片麻痺で垂脱臼が起こりやすい関節はどれか。

1. 肩関節
2. 肘関節
3. 股関節
4. 膝関節

あ 9-102 脳卒中急性期の理学療法で誤っている記述はどれか。

1. 体位変換を2時間毎に行う。
2. 肩関節は軽度外転外旋位に保持する。
3. 手指の関節は伸展位に保持する。
4. 関節可動域訓練を行う。

あ 10-101 脳卒中患者の杖歩行で誤っている記述はどれか。

1. 杖は健側で持つ。
2. 杖の次に健側下肢を前に出す。
3. 初期は4支点杖が安全である。
4. 上達すると揃え型から前型になる。

あ 10-102 脳卒中患者の二次合併症はどれか。

1. 言語障害
2. 運動麻痺
3. 関節拘縮
4. 排泄障害

あ 11-104 脳卒中患者への指導で正しい記述はどれか。

1. ベッド上の仰臥位から足を降ろして座る時は患側方向へ起きあがる。
2. 車いすからベッドに移る時は患側からベッドに近づく。
3. 階段を降りる時は患側から足を前に出す。
4. シャツを脱ぐ時は患側の袖から脱ぐ。

あ 13-103 脳梗塞急性期の患者で運動を開始してはならないのはどれか。

1. 収縮期血圧が150mmHg
2. 脈拍が毎分150回
3. 呼吸数が毎分12回
4. 体温が35.2℃

あ 14-101 脳卒中急性期にみられない症状はどれか。

1. 肩手症候群
2. 嚥下障害
3. 半側空間無視
4. 運動性失語

あ 16-96 脳卒中片麻痺に起こりやすい拘縮肢位として誤っているのはどれか。

1. 肩関節内転・内旋位
2. 手指伸展位
3. 足関節内反尖足位
4. 股関節屈曲位

あ 17-96 脳卒中の合併症で誤っているのはどれか。

1. 褥 創
2. 嚥下性肺炎
3. 自律神経過反射
4. 深部静脈血栓症

あ 17-97 脳卒中の急性期リハビリテーションで誤っているのはどれか。

1. 肩手症候群の治療
2. 良肢位保持
3. 座位保持訓練
4. 関節可動域訓練

あ 18-97 脳卒中のリハビリテーションで正しい記述はどれか。

1. 意識障害が強い患者には関節可動域訓練を行わない。
2. 嚥下障害に対する訓練を言語聴覚士が行う。
3. 歩けない患者には家事動作訓練を行わない。
4. 座位がとれない患者に歩行訓練を行う。

あ 19-97 脳卒中左片麻痺患者で適切な記述はどれか。

1. 杖は左手にもつ。
2. 階段は左足から昇る。
3. 歩行介助は左側からする。
4. 前開きシャツは右手から通す。

あ 20-92 脳卒中維持期のリハビリテーションを担うのはどれか。

1. 脳卒中ケアユニット
2. 救命救急病棟
3. 通所リハビリテーション施設
4. 集中治療病棟

あ 20-98 脳卒中患者の運動療法でアンダーソン分類の中止基準となるのはどれか。

1. 発汗
2. 1 分間に 1 回の期外収縮
3. 脈拍 100/分
4. 収縮期血圧 40mmHg 以上の上昇

あ 21-98 脳卒中の障害について正しい記述はどれか。

1. 橋病変は対麻痺を生じやすい。
2. 小脳病変は難治性疼痛を生じやすい。
3. 麻痺性構音障害と嚥下障害は合併しやすい。
4. 失語症は左片麻痺に合併しやすい。

あ 22-94 脳卒中のブルンストロームステージで弛緩性麻痺がみられるのはどれか。

1. ステージ I
2. ステージ II
3. ステージ III
4. ステージ IV

あ 22-97 脳卒中の肩手症候群に対するリハビリテーションで正しいのはどれか。

1. 頰椎牽引
2. 関節可動域訓練
3. 筋力強化訓練
4. 協調性訓練

あ 23-83 脳卒中の急性期リハビリテーションの内容で正しいのはどれか。

1. 階段昇降訓練
2. 関節可動域訓練
3. 利き手交換訓練
4. 家事動作訓練

あ 24-82 慢性期の脳卒中片麻痺患者に最もよく用いられる装具はどれか。

1. 長下肢装具
2. 膝関節装具
3. 短下肢装具
4. 足関節装具

あ 24-84 脳卒中の運動療法を開始する際にアンダーソン・土肥の基準で訓練を行わない方が良い場合はどれか。

1. 安静時に息切れがある。
2. 下肢に筋肉痛がある。
3. 脈拍が 100 回/分である。
4. 収縮期血圧が 140mmHg である。

あ 25-84 脳卒中の嚥下障害で正しいのはどれか。

1. 食道の通過障害を生じる。
2. 仮性球麻痺よりも球麻痺が多い。
3. 時間経過で回復しにくい。
4. ゼリーは飲み込みやすい。

あ 26-89 脳卒中患者で積極的なリハビリテーションを行わないのはどれか。

1. 労作時に狭心発作がみられる場合
2. 安静時拡張期血圧が 110mmHg の場合
3. 下肢の浮腫がみられる場合
4. 安静時脈拍が 50 回/分の場合

あ 27-82 脳卒中片麻痺患者に最もよく用いられるのはどれか。

1. 短下肢装具
2. 長下肢装具
3. 膝関節装具
4. 足関節装具

あ 27-84 脳血管障害における嚥下障害で正しいのはどれか。

1. 絶食により誤嚥性肺炎を防止できる。
2. 食事にむせなければ誤嚥は否定できる。
3. 口腔ケアは誤嚥性肺炎予防に有効である。
4. 意識障害があるときでも積極的に経口摂取を行う。

あ 27-85 脳卒中の急性期リハビリテーションについて正しいのはどれか。

1. 廃用症候群予防のため早期離床を目指す。
2. 急性期にはリスクが高いために行わない。
3. 理学療法を行うには医師の処方不要である。
4. 自立活動が期待できない重度障害者は対象にならない。

あ 28-84 脳卒中に伴う運動障害で正しいのはどれか。

1. 小脳の障害では運動失調を伴う。
2. 痙性は上肢では伸筋群に出現しやすい。
3. 重度の錐体路障害では発症時に痙性麻痺となる。
4. 片麻痺の回復で最終段階では共同運動パターンとなる。

あ 28-85 脳卒中の維持期リハビリテーションについて正しいのはどれか。

1. 歩行能力の改善は期待できない。
2. 医療保険でのリハビリテーションが主体となる。
3. 通所リハビリテーションでは機能訓練を行わない。
4. 就労年齢では復職に向けたリハビリテーションを行う。

はき 1-94 脳血管障害で誤っているのはどれか。

1. 弛緩性麻痺に始まり次第に痙性麻痺なることが多い。
2. 失語症は発生器官の麻痺による。
3. 知覚および視覚に障害のない失認症がある。
4. 拘縮の予防または治療のために関節可動域訓練が必要である。

はき 2-93 脳卒中後片麻痺について正しい記述はどれか。

1. 片麻痺からは骨粗鬆症にならない。
2. 麻痺の程度と排尿障害の程度とは無関係である。
3. 痙性の出現によって内反尖足が起こる。
4. 関節可動域訓練によって肩関節の亜脱臼が起こりやすい。

はき 3-93 脳卒中後遺症について正しい記述はどれか。

1. 左片麻痺に失語症が起こる。
2. 右片麻痺に失認症が起こる。
3. 麻痺側肩関節に亜脱臼が起こる。
4. 発症初期から強い痙性麻痺が起こる。

はき 3-94 脳卒中患者の背臥位における良肢位保持について正しい記述はどれか。

1. マットレスは柔らかいものとする。
2. 肩甲帯を後方に引く。
3. 股関節は内旋外旋中間位とする。
4. 足関節は底屈位とする。

はき 5-91 脳卒中患者の動作について正しい記述はどれか。

1. 衣服を脱ぐときは健側から行う。
2. ベッドから起きるときは患側を下にして行う。
3. ベッドからの移乗では車椅子を患側に置く。
4. 階段は健側から降りる。

はき 5-95 脳卒中患者の合併症はどれか。

1. けいれん
2. 視床痛
3. 肩手症候群
4. 失語症

はき 6-93 脳卒中の障害で誤っている記述はどれか。

1. 多発性梗塞は痴呆の原因となる。
2. 舌、口唇の麻痺は失語症の原因となる。
3. 嚥下障害は肺炎の原因となる。
4. 肩手症候群は上肢痛の原因となる。

はき 7-93 脳卒中の回復に関して誤っている記述はどれか。

1. ブルンストロームのステージに従って回復する。
2. 発症後6か月ころから回復が著明となる。
3. 上肢の回復予後は一般に悪い。
4. ホームプログラムは機能維持に有用である。

はき 8-93 脳卒中片麻痺患者リハビリテーションについて誤っている記述はどれか。

1. 家屋の構造を知る必要がある。
2. 介助の軽減は目的の一つとなる。
3. 発症後6か月で完結させる。
4. 弛緩性麻痺の期間が長いと到達レベルは低い。

はき 9-92 片麻痺の理学療法で正しい記述はどれか。

1. マット上で膝立ち訓練を行う。
2. 立位保持は膝の過伸展を利用する。
3. 杖歩行では杖の次に健側下肢を前に出す。
4. 浴槽へは患側下肢から入る。

はき 10-95 脳卒中急性期の背臥位での良肢位として誤っているのはどれか。

1. 枕を高めにする。
2. 患側肩甲帯を前に出す。
3. 両骨盤を水平にする。
4. 股関節を内外旋中間位にする。

はき 11-94 脳卒中による右片麻痺患者にみられる症状で誤っているのはどれか。

1. 失語症
2. 左半側空間失認
3. 両眼での右側視野の欠損
4. 右上下肢の知覚障害

はき 12-92 脳卒中のリハビリテーションで正しい記述はどれか。

1. 意識障害が強い患者では関節可動域訓練は禁忌である。
2. 坐位が安定していなくても歩行訓練を開始する。
3. 歩行が自立していなくてもセルフケア訓練を開始する。
4. 下肢麻痺が共同運動レベルでは装具歩行ができない。

はき 16-85 脳梗塞において運動負荷が禁忌となるのはどれか。

1. 安静時心拍数 90/分
2. 収縮期血圧 150mmHg
3. 拡張期血圧 120mmHg
4. 上室性期外収縮

はき 17-89 脳卒中片麻痺患者への歩行指導について正しい記述はどれか。

1. 歩行訓練開始時に歩行器を使用させる。
2. 感覚障害が強い患者にはプラスチック製短下肢装具を使用させる。
3. 見守り歩行では介助者は患者の健側に位置する。
4. 3動作歩行では杖をついた後は患側下肢を前に出させる。

はき 18-88 脳卒中片麻痺患者に用いる装具はどれか。

1. 短下肢装具
2. 免荷装具
3. 股関節装具
4. 腰椎装具

はき 19-89 脳卒中のリハビリテーションで、国際障害分類（ICIDH）で定義された能力低下に対して行うのはどれか。

1. 関節可動域訓練
2. 麻痺側促通訓練
3. 利き手変換訓練
4. 持久性訓練

はき 19-90 脳卒中急性期における良肢位で正しいのはどれか。

1. 肩関節外転
2. 手関節掌屈
3. 足関節底屈
4. 手指伸展

はき 20-90 肩手症候群の症状で最も適切なのはどれか。

1. 手指末端の壊死
2. 肩関節亜脱臼
3. 手掌のしびれ
4. 手背の腫脹

はき 21-87 脳卒中片麻痺患者に用いる装具はどれか。

1. PTB式免荷装具
2. 股関節外転装具
3. 金属支柱付膝装具
4. 靴べら式短下肢装具

はき 21-89 脳卒中片麻痺患者の対応で適切な記述はどれか。

1. 患側の可動域訓練では素早く関節を動かす。
2. 麻痺側の肩関節亜脱臼は徒手的整復を行う。
3. 杖の高さは床から臍部の高さまでとする。
4. **利き手が完全麻痺の場合は利き手交換訓練を行う。**

はき 22-89 脳卒中のリハビリテーション中に起こる骨折の特徴で正しいのはどれか。

1. 健側下肢が多い。
2. 抗血栓剤の内服で起こりやすい。
3. **半側空間無視の合併で起こりやすい。**
4. 失語症の合併で起こりやすい。

はき 23-83 脳卒中の左大脳半球損傷でよくみられる障害はどれか。

1. 球麻痺
2. **失語症**
3. 左片麻痺
4. 左半側空間無視

はき 24-83 脳卒中の肩手症候群に対するリハビリテーションで正しいのはどれか。

1. 温熱療法は禁忌である。
2. 頸椎牽引が有効である。
3. 関節可動域訓練は禁忌である。
4. **星状神経節ブロックが有効である。**

はき 25-84 右大脳半球の脳卒中によくみられるのはどれか。

1. 右片麻痺
2. 球麻痺
3. 失語症
4. **左半側空間無視**

はき 28-83 脳卒中片麻痺患者の動作について正しいのはどれか。

1. 衣服を着るときは健側から行う。
2. ベッドでの起き上がりは患側を下にする。
3. **歩行時には杖を健側で持つ。**
4. 階段は患側から上がる。

脳卒中 脳梗塞 脳血管障害 片麻痺 (34 問)

あまし国家試験 リハビリテーション医学

あ 1-104 急性期の脳血管障害の対応で正しいのはどれか。

1. 良肢位の保持だけすればよい。
2. 関節可動域訓練は急性期には避ける。
3. **足関節は 0° で固定しなければならない。**
4. 肩関節は軽度の外転、外旋位にするのがよい。

あ 2-104 脳卒中について誤っている記述はどれか。

1. 言語障害には失語症と構音障害とがある。
2. **運動障害と知覚障害は比例する。**
3. 失認失行は訓練の阻害因子となる。
4. 麻痺の回復の速度は患者によって異なる。

あ 3-103 脳卒中急性期における理学療法の原則として正しい記述はどれか。

1. 体位変換は毎日 1 回とする。
2. 側臥位は麻痺側を下にする。
3. 良肢位で持続的に固定する。
4. **他動的関節可動域訓練をする。**

あ 4-102 脳卒中に属さない疾患はどれか。

1. 脳内出血
2. 脳梗塞
3. **脳腫瘍**
4. クモ膜下出血

あ 5-103 脳卒中急性期の理学療法で適切でないのはどれか。

1. 体位変換
2. 良肢位の確保
3. 関節可動域訓練
4. **歩行訓練**

あ 6-102 脳卒中片麻痺患者の歩行訓練で誤っている記述はどれか。

1. 立位バランス訓練を行った後に開始する。
2. 不安定な場合は 4 脚杖を用いる。
3. **3 点歩行ではまず健側下肢を前に出す。**
4. 内反尖足には短下肢装具を用いる。

あ 7-102 脳卒中のリハビリテーションで誤っている記述はどれか。

1. 状態に関係なく直ちに開始する。
2. **良肢位保持は拘縮を予防する。**
3. 健側肢の筋力強化を行う。
4. 体位変換は褥瘡を予防する。

あ 9-105 片麻痺で垂脱臼が起こりやすい関節はどれか。

1. **肩関節**
2. 肘関節
3. 股関節
4. 膝関節

あ 9-102 脳卒中急性期の理学療法で誤っている記述はどれか。

1. 体位変換を2時間毎に行う。
2. 肩関節は軽度外転外旋位に保持する。
3. 手指の関節は伸展位に保持する。
4. 関節可動域訓練を行う。

あ 10-101 脳卒中患者の杖歩行で誤っている記述はどれか。

1. 杖は健側で持つ。
2. 杖の次に健側下肢を前に出す。
3. 初期は4支点杖が安全である。
4. 上達すると揃え型から前型になる。

あ 10-102 脳卒中患者の二次合併症はどれか。

1. 言語障害
2. 運動麻痺
3. 関節拘縮
4. 排泄障害

あ 11-104 脳卒中患者への指導で正しい記述はどれか。

1. ベッド上の仰臥位から足を降ろして座る時は患側方向へ起きあがる。
2. 車いすからベッドに移る時は患側からベッドに近づく。
3. 階段を降りる時は患側から足を前に出す。
4. シャツを脱ぐ時は患側の袖から脱ぐ。

あ 13-103 脳梗塞急性期の患者で運動を開始してはならないのはどれか。

1. 収縮期血圧が150mmHg
2. 脈拍が毎分150回
3. 呼吸数が毎分12回
4. 体温が35.2℃

あ 14-101 脳卒中急性期にみられない症状はどれか。

1. 肩手症候群
2. 嚥下障害
3. 半側空間無視
4. 運動性失語

あ 16-96 脳卒中片麻痺に起こりやすい拘縮肢位として誤っているのはどれか。

1. 肩関節内転・内旋位
2. 手指伸展位
3. 足関節内反尖足位
4. 股関節屈曲位

あ 17-96 脳卒中の合併症で誤っているのはどれか。

1. 褥 創
2. 嚥下性肺炎
3. 自律神経過反射
4. 深部静脈血栓症

あ 17-97 脳卒中の急性期リハビリテーションで誤っているのはどれか。

1. 肩手症候群の治療
2. 良肢位保持
3. 座位保持訓練
4. 関節可動域訓練

あ 18-97 脳卒中のリハビリテーションで正しい記述はどれか。

1. 意識障害が強い患者には関節可動域訓練を行わない。
2. 嚥下障害に対する訓練を言語聴覚士が行う。
3. 歩けない患者には家事動作訓練を行わない。
4. 座位がとれない患者に歩行訓練を行う。

あ 19-97 脳卒中左片麻痺患者で適切な記述はどれか。

1. 杖は左手にもつ。
2. 階段は左足から昇る。
3. 歩行介助は左側からする。
4. 前開きシャツは右手から通す。

あ 20-92 脳卒中維持期のリハビリテーションを担うのはどれか。

1. 脳卒中ケアユニット
2. 救命救急病棟
3. 通所リハビリテーション施設
4. 集中治療病棟

あ 20-98 脳卒中患者の運動療法でアンダーソン分類の中止基準となるのはどれか。

1. 発汗
2. 1 分間に 1 回の期外収縮
3. 脈拍 100/分
4. 収縮期血圧 40mmHg 以上の上昇

あ 21-98 脳卒中の障害について正しい記述はどれか。

1. 橋病変は対麻痺を生じやすい。
2. 小脳病変は難治性疼痛を生じやすい。
3. 麻痺性構音障害と嚥下障害は合併しやすい。
4. 失語症は左片麻痺に合併しやすい。

あ 22-94 脳卒中のブルンストロームステージで弛緩性麻痺がみられるのはどれか。

1. **ステージ I**
2. ステージ II
3. ステージ III
4. ステージ IV

あ 22-97 脳卒中の肩手症候群に対するリハビリテーションで正しいのはどれか。

1. 頸椎牽引
2. **関節可動域訓練**
3. 筋力強化訓練
4. 協調性訓練

あ 23-83 脳卒中の急性期リハビリテーションの内容で正しいのはどれか。

1. 階段昇降訓練
2. **関節可動域訓練**
3. 利き手交換訓練
4. 家事動作訓練

あ 24-82 慢性期の脳卒中片麻痺患者に最もよく用いられる装具はどれか。

1. 長下肢装具
2. 膝関節装具
3. **短下肢装具**
4. 足関節装具

あ 24-84 脳卒中の運動療法を開始する際にアンダーソン・土肥の基準で訓練を行わない方が良い場合はどれか。

1. **安静時に息切れがある。**
2. 下肢に筋肉痛がある。
3. 脈拍が 100 回/分である。
4. 収縮期血圧が 140mmHg である。

あ 25-84 脳卒中の嚥下障害で正しいのはどれか。

1. 食道の通過障害を生じる。
2. 仮性球麻痺よりも球麻痺が多い。
3. 時間経過で回復しにくい。
4. **ゼリーは飲み込みやすい。**

あ 26-89 脳卒中患者で積極的なリハビリテーションを行わないのはどれか。

1. **労作時に狭心発作がみられる場合**
2. 安静時拡張期血圧が 110mmHg の場合
3. 下肢の浮腫がみられる場合
4. 安静時脈拍が 50 回/分の場合

あ 27-82 脳卒中片麻痺患者に最もよく用いられるのはどれか。

1. 短下肢装具
2. 長下肢装具
3. 膝関節装具
4. 足関節装具

あ 27-84 脳血管障害における嚥下障害で正しいのはどれか。

1. 絶食により誤嚥性肺炎を防止できる。
2. 食事にむせなければ誤嚥は否定できる。
3. 口腔ケアは誤嚥性肺炎予防に有効である。
4. 意識障害があるときでも積極的に経口摂取を行う。

あ 27-85 脳卒中の急性期リハビリテーションについて正しいのはどれか。

1. 廃用症候群予防のため早期離床を目指す。
2. 急性期にはリスクが高いために行わない。
3. 理学療法を行うには医師の処方不要である。
4. 自立活動が期待できない重度障害者は対象にならない。

あ 28-84 脳卒中に伴う運動障害で正しいのはどれか。

1. 小脳の障害では運動失調を伴う。
2. 痙性は上肢では伸筋群に出現しやすい。
3. 重度の錐体路障害では発症時に痙性麻痺となる。
4. 片麻痺の回復で最終段階では共同運動パターンとなる。

あ 28-85 脳卒中の維持期リハビリテーションについて正しいのはどれか。

1. 歩行能力の改善は期待できない。
2. 医療保険でのリハビリテーションが主体となる。
3. 通所リハビリテーションでは機能訓練を行わない。
4. 就労年齢では復職に向けたリハビリテーションを行う。